

福祉文化通信

～well-beingへの道～

2006.10.5 vol.58



〔編集委員〕
安倍 大輔
長瀬 晃二
馬場 清子
山中 淳子

TEL&FAX 048(878)3793 ホームページアドレス <http://www.fukushibunka.gr.jp/> メールアドレス jimukyoku@fukushibunka.gr.jp

事業活動報告

今年もいよいよ全国大会が近づいてまいりました。すでにお知らせの通り、今年の大会は11月25日、土、26日、日に埼玉県さいたま市にあります浦和大学で行われます。大会テーマは「福祉文化創造の当事者をめざす」です。福祉の転換期といわれる現代において今、福祉の文化化は、様々な意味で、危機的状況 を呈しています。その一方で、厳しい状況の中においても、福祉文化創造の当事者として福祉文化を

発信する活動も行われています。そうして方々にお集まりいただき、参加した方々が元気の出る大会にすべく、実行委員一同、準備を進めていますので、是非とも一人でも多くの方々に、お集まりいただければと思います。詳細は本通信とともに送付します大会パンフレットをご覧ください。

一方、岡山県では、岡山福祉文化を語る会 が産声を上げました。福祉の先人を多く輩出した岡山県は、現在でも、ユニークな実践活動が行われている土地でもあります。このたびその岡山県における福祉活動を、福

祉文化の視点から検証し、語り合いたいとの思いからこの会が発足しました。第1回目の研究会では、石井十次が孤児救済に至るまでの要因 をテーマに討議が行われました。

この秋は、東北プロククでのセミナー、や九州プロククでは第1回目となるプロクク大会も予定されています。全国各地から、福祉文化の情報を発信し、それを大きな潮流にしていきます。

現場セミナー・
越後地域福祉文化塾



岡山福祉文化を
語る会



福祉文化人インタビュー



廣間 佳世さん
レクリエーションカ

Q 卒研で障害者のレクですが、主な実践についてご紹介ください

A 至誠ホムでは健康体操やクラブ活動、認知症の方のレク活動をし、厚木精華園では各寮の出勤レクや体育館の活動をしています

Q 多方面への実践を一言にも活かしていらしる感ですね

A 和泉福祉専門学校、田園調布学園大、横浜国際福祉専門学校で講師をし、将来現場で働く人へ、実践的な学びを提供しています

Q 積み上げた実践を研究へと結びつけているのがすごいですか

A 特に高齢の知的障害者のレクについて研究しており、学会

の実践報告集に投稿しました。いま日本体育大で桜井教授のもと、研究員をし、研究をさらに深めるべく、現場のニードをアンケートから分析し、私のような立場の人間が何をすべきか、どう生かせるかを考えていきたいと思っています

Q 知的障害者施設の高齢化という点、平均年齢は何歳でしたか

A その施設では64歳なんです

Q 確かに高齢ですね、他にもレクやリハビリの職員はいますか

A 半年に一度理学療法士が指導に來るので、その実践理論を私の活動の中に盛り込みながら、雇用候補者や職員の職員全体に広め、それを生活の中で楽しく実践していけるような理論と活動にまとめたいと考えています

Q 実践を通して何かと困難な面もあるのではと思えますか

A 意思や感情表現の難しい利用者へのレクのあり方で迷うことが多くあります。良かれと思っても実際の確認が難しいからです。これから益々そういう方が増えると思うので、プロとし

てどうすればと恥ずかしながら悩みます

Q 効果測定の難しさですね

A 知的障害の方に関しては測定器具などは使えないのが現状で、無理に使った場合は気持ちが悪く、正しい数値を期待できません

Q 教員側の課題はありますか

A 現場の状況を見てみると、特養だとレクなどや、ていられないだろう、アイス、ピスならもとレクをし、かり学びたか、ただらう、こんなことを思いながら、どちらになっても学んで良かったと思えるよう、生徒自身の健康や生きがい、友達との交流などを考えながら、授業を組んでいます

Q 研究員の課題についてはいかがですか

A 20年余り続けてきた実践が、本当にお年寄りの身体に良いのか自分の目で確かめたく、40歳過ぎで大学院に通い、研究ノウハウを学び、認知症高齢者のレクについて研究論文を書きました。本当に健康に役立つということを実感し、現場でも自信が持てました

書籍紹介

日本子どもを守る会編
子ども白書2006
子どもを大切に作る国・しない国を作る国・人口減少時代の未来をひらく想像力
早稲田 2006年

白書は通常、政府が発行するものですが、子ども白書は日本子どもを守る会が1996年から毎年発行している。市民の手による白書です。その42冊目にあたる2006年版が発行されました

子ども白書2006は

I. 座談会 教育基本法が改正されたらどうなるかー息苦しい国にしないために II. ことしの子ども最前線 III. 特論・20世紀の証言 IV. 子どもの発達と権利保障ーデータと資料で見ることの1年 V. 資料で構成されています

2005年度の人口統計調査で合計特殊出生率が1.25と、初めて人口が減少傾向になりました

これは今日の日本が、子どもを産み・育てることが困難な時代にあるということを示しています。にもかかわらず、子どもを巻き込んだ犯罪の増加や子どもの心や身体の問題など、子どもを取り巻く環境はますます危機的状況にあり、日本は、子どもを大切にしない国、とな、てしまっています。更に子どもたち

は、物事を科学的に考える思考力や、貧困あるいは格差、人権問題などを生み出している社会的要因を見極める力が育、てきていないのでは、ということが指摘されています

そうした日本の状況に対して II では、若者の就労支援、子どもの医療は良くな、たのか、格差社会における子ども、のライフチャンス、人口減少社会と子ども・子育て、などについて、それぞれの領域の専門家による論文が収録されています

また、IV では、いのちと健康、医療、家庭、学校、福祉、地域、司法、文化、メディア、環境・世界の10領域において、現在起こ、っている問題を提起するだけではなく、市民自らの手による子どもの育ちや子育てを充実させるための積極的な取り組みが取り上げられています

子ども白書は、毎年、各領域で注目される話題を取り上げ、わかりやすい解説とともに、問題提起や優れた実践の紹介がされています。現代の子どもの置かれている全体的な状況を知ることに加え、自分の関心のある分野について今後より深く掘り下げていくための導入に最適ではないでし、うか

そして今年4月栗原地域10町村が合併し人口8万5千人の栗原市が発足したのですが、合併後の地域づくりを視野にいれ、その建設過程での地域住民への参加の呼びかけやいくつもの仕掛けが試みられました。工事現場の見学会やグランドオープンの設備や仕上げ材の選定、壁面となるボードに住民が人居着やがて自分もへの想いを書くなどしました。施設は自宅の離れ部屋という地域の共有財産と感ずてもらえるようにしたいという町や法人の熱い思いがありました。

自由型ではそんなホムの職員や町民中高生、くり電サボ、タズの活動報告も予定されています。紅葉の美しい山里、惜しまれる赤いくり電、地域力を育む新しい動きに、学会の皆さまのエネルギーをお願いします。

この大会は昨年と同様に宮城県地域福祉課の協力のもと、社会福祉法人宮城福祉会・栗原市・栗原市社会福祉協議会・宮城地区自治会連合会と日本福祉文化学会東北ブロックが主催し、宮城県・宮城県老人福祉施設協議会・田宮沢町内企業等が後援して開かれるものです。

なお、学会員は参加費無料です。問い合わせ先、

東北ブロック 理事 加藤美枝
TEL022 374 4598

加藤研究室

〒112-8558 Yano@sendai-shirayuri.ac.jp

九州ブロック長崎大会

*記念シンポジウム 福祉文化の過去・現在・未来

*実践報告 音楽と織物で創造する福祉文化

日時：2006年11月12日 13時 16時45分

場所：社会福祉法人ほかにわ共和国体育館 南島原市加津佐町

趣旨：初の九州ブロック大会は今年誕生したばかりの社会福祉法人ほかにわ共和国 志賀俊紀理事長 において開催します。ほかにわ共和国は、半世紀にわたる福祉実践の歴史を踏まえ、知的障害や精神障害のある人も共に生きる、福祉のまちづくりと、福祉文化の創造をさらに目指しており、その実践を学ぶことができます。会員はもとより、趣旨に賛同される方々も、気軽に参加ください。

参加費：無料 資料代として500円

主催：日本福祉文化学会九州ブロック 代表：日比野正己・長崎純心大学教授 日本福祉文化学会九州ブロック長崎大会実行委員会 大会長：志賀俊紀

後援：栗木尚 南島原市社会福祉協議会 南島原市教育委員会 長崎県社会福祉協議会 長崎県社会福祉士会 長崎県介護福祉士会 長崎県社会福祉協議会・施設種別部会 日本福祉施設会・九州ブロック会 社会福祉法人ほかにわ共和国 交差点中吉市事務局・長崎純心大学

現代福祉学科日比野研究室
〒852-8558
長崎市三ツ山町235
TEL095 846 0084
FAX095 849 1894

プログラム 予定
12:00 受付開始
13:00 開会行事 志賀俊紀氏による
13:10 記念シンポジウム
福祉文化の過去・現在・未来
福祉文化をデザインする時代へ
コトネタ

日比野正己 長崎純心大学現代福祉学科教授 福祉デザイン

シンポジスト
一番 瀬藤子 日本女子大学名誉教授
長崎純心大学
院長 長崎純心大学
院長 長崎純心大学
院長 長崎純心大学

福祉文化が紡ぐ日本の未来
津曲裕次 筑波大学
名誉教授 長崎純心大学大学院教授

福祉文化の歴史 徳乃川学園・石井雙子会話誌
志賀俊紀 社会福祉法人ほかにわ共和国理事長
福祉の原風景から発信・創造する福祉文化
ドキメンタリ 映像 僕らはいつも片方の靴
15:00 休憩
15:10 実践報告 音楽と織物で創造する福祉文化
大駐車場あり
バス・鳥鉄バス 県営バスで権田バス停下車 権田公園方面へ徒歩15分
参加申し込み
長崎純心大学日比野研究室宛
FAX095 849 1894

★フラスのみ受付します
10月末日締切

新学会員 (9月14日現在)

個人会員

- 池田 守
- 平野啓子
- 山口弘幸
- 江口麗子
- 中村康子
- 志賀俊紀
- 安達憲之
- 中瀬秀一
- 岡崎幸子
- 富田川智志
- 松下由佳理
- 平塚備子
- 鈴木将文
- 味 明仍
- 栗原憲之
- 平田美智子
- 高野正人
- 小野始壽

(社福)朝日新聞厚生文化事業団
(有)長崎建築社
長崎ウエスレヤン大学
西九州大学・長崎純心大学大学院研究生
浅井学園大学
(社)ほかにわ共和国 八雲寮
(有)高思社
湊川短期大学
龍寿会
第一福祉大学
八戸工業大学
長野大学 実習助手
和泉短期大学
東北福祉大学非常勤講師

学生会員

- 大橋千枝
- 林 香里
- 島 忠久
- 池田利華
- 寿々木房子
- 久保敦子
- 田 聖樹

京都女子大学大学院
長崎純心大学大学院
中央大学大学院
長崎純心大学大学院研究生
信教大学大学院
立命館大学大学院博士課程